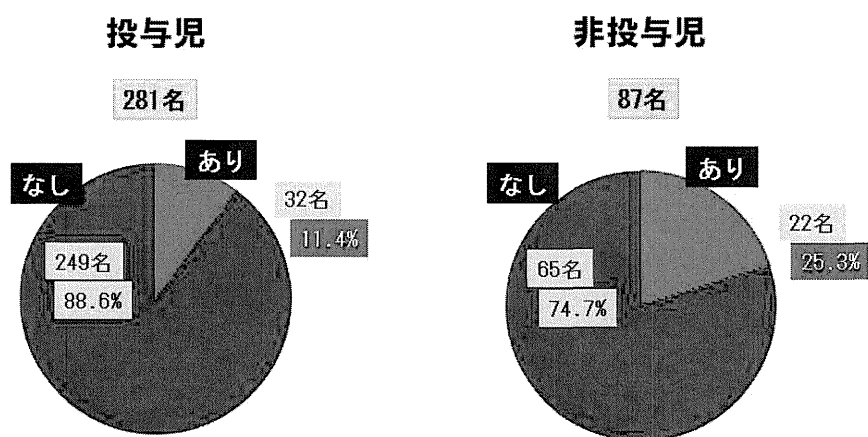


図6、反復性喘鳴（医師判定）の結果



\*反復性喘鳴：3回以上の喘鳴を指す

表4、3歳時と6歳時での相関性

	相関係数	p
総 IgE	0.732	0.0001
Dp RAST (class)	0.768	0.0001
Dp RAST	0.758	0.0001

図7、呼吸器関連疾患による受診回数および入院回数

中止例を含めた母集団(444例；投与群 349例、非投与群 95例)

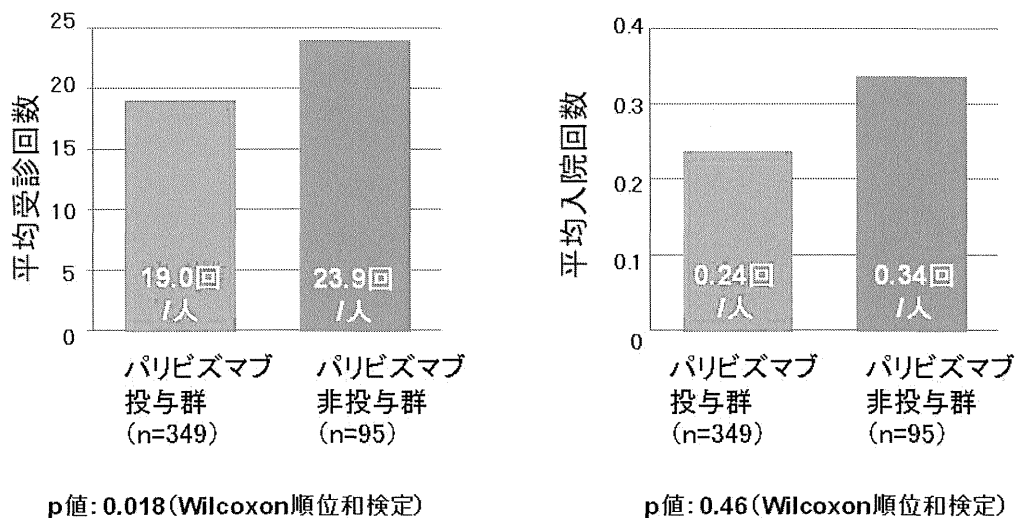
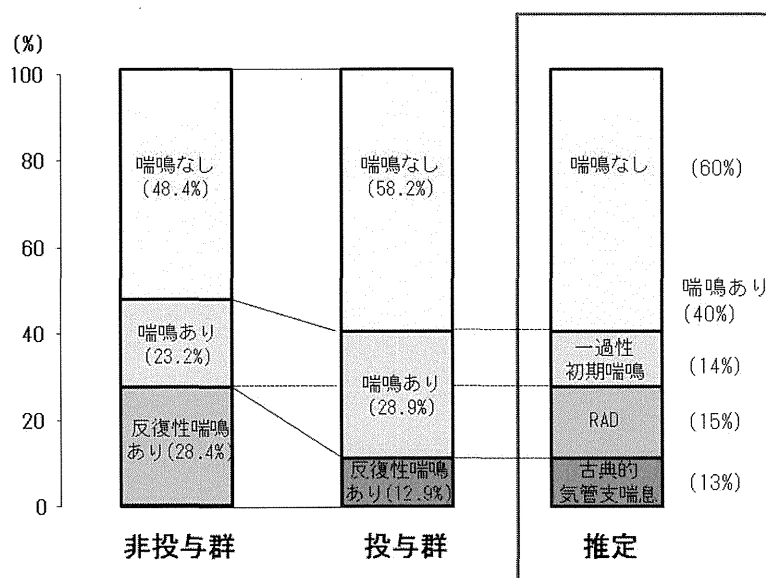


図8、乳幼児の喘鳴に関する Phenotype の推測



### Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
福村明子 望月博之	【ウイルス感染の治療・予防の進歩】RS ウイルスの予防は喘息の予防 パリビズマブの新たな効用	化学療法の領域	28(3)	440-446	2012
望月博之	【最近10年で最も進歩した研究分野を検証する】小児喘息の病態、	呼吸	31(9)	853-856	2012
望月博之	乳幼児喘息、RS ウイルス感染と5歳以下の喘息	日本小児アレルギー学会誌	26(1)	177-184	2012
西田光宏 吉原重美	喘鳴を起こす疾患の特徴と看護のポイント、RS ウイルス感染症と喘息性気管支炎	小児看護	85(1)	80-85	2014
山田裕美 吉原重美	難治化に関わる要因、ウイルス性呼吸器感染症	アレルギー・免疫	20(10)	1268-1273	2013
吉原重美 金子賢太郎	小児のウイルス性細気管支炎	呼吸	31(9)	785-790	2012
吉原重美	乳幼児喘息 乳幼児の気管支喘息における early intervention	日本小児アレルギー学会誌	26(1)	168-175	2012
吉原重美	喘息と感染症 気管支喘息の発症とRSV感染	日本小児アレルギー学会誌	26(3)	474	2012
楠田 聡	【分子標的薬-がんから他疾患までの治癒をめざして】臨床研究非腫瘍性疾患の分子標的薬、RS(respiratory syncytial)ウイルス感染症	日本臨床	70(増刊8)	579-582	2012
楠田 聡	早産児のRS ウイルス感染症対策 新ガイドラインを受けて	産婦人科の進歩	64(1)	72-75	2012

RS ウイルス気道感染予防によるアトピー型気管支喘息の  
発症抑制効果に関する研究

平成 24 年度 総括研究年度終了報告書

平成 25 年 5 月 12 日

受託者 住所： 神奈川県伊勢原市下糟屋 143  
東海大学医学部専門診療学系小児科学

氏名： 望 月 博 之

厚生労働科学研究費補助金  
免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業

